

# 学校経営案と直結した学校評価による学校改善

札幌市立平岡小学校

## I はじめに

学校改善につなげる  
継続的な学校評価

「毎日が参観日」  
「毎日が学校評価」  
の学校づくり

### 1 本校における学校評価のねらい

本校では、学校経営方針に基づき、保護者・地域との確かな信頼関係を築きながら教育活動を展開している。また、学校重点目標の具体化に向けて、教職員との共通理解を図るとともに、子どもの育ちの過程を踏まえた年間の評価サイクルを設定し、教育活動の改善につなげる学校評価の取組を展開している。今年度の重点目標は、『『底力の発揮』～子どものための保護者・地域・教職員の連携～』である。この経営理念の一つとして、「毎日が参観日」を挙げている。



本校の学校評価は、学校の教育活動の成果や課題を把握し、教職員の共通理解を図りながら、日々継続的に行っている。年間の評価計画に基づく、いわゆるPDCAのサイクルをより小さく、取組ごとに細かく展開している。また、教職員による評価だけでなく、保護者や児童、地域の方々等の評価も取り入れ、より多様な視点から学校改善を行っている。

### 2 昨年度の学校評価をもとにした改善点

本校では、昨年度の学校評価を受け、以下の通り、改善を進めた。

- (1) 携帯スクール情報の発信を開始し、不審者情報等、緊急時の保護者連絡へ対応
- (2) 保護者が定期的に学校に足を運べるための、各行事等の回数や時期の設定  
→運動会開催時期を、5月末から6月上旬に変更  
→12月の個人懇談を、通知表配布後の10月に移動
- (3) 指導部（児童活動部、学校行事部、学級活動部）の部会を部門ごとに行い、部長による連携を図ることでの運営の軽減化
- (4) 職員会議回数の削減、協議・連絡内容を精選
- (5) 各学期ごと点検整理日を設定環境整備の重点化
- (6) 新学習指導要領移行に伴う、外国語活動、生活科の各観点項目の見直し



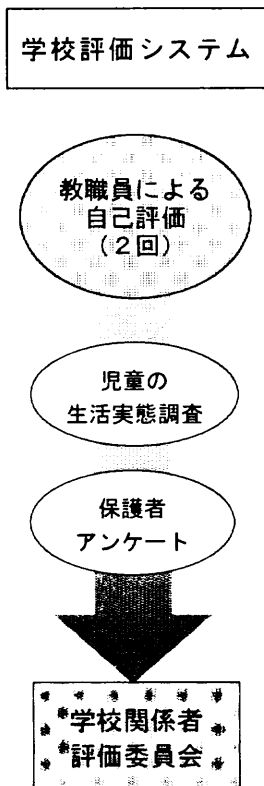
以上の改善点について、始められるものから取り組み、学校としての回答を迅速に発信することで、学校評価の意味や価値を互いに実感することができた。また、本校教育活動を運営するに当たって重視する5つの「S」（Smile、Speed、Slim、Service、Safety）を最優先する姿勢を体現できたものといえる。

学校改善への  
具体的な取組

#### 5つの「S」

Smile、Speed、Slim  
Service、Safety  
(笑顔、迅速、省力化  
安全安心、貢献奉仕)

## II 本校の学校評価システム



### 1 自己評価と評価委員会

本校では校長の学校経営方針と重点を基に、評価内容や評価項目と直結している。本校は評価委員会として新たな組織の立ち上げは行っておらず、校長、教頭、教務主任、総務、各校務分掌の部長で構成する推進会議のメンバーで他の協議事項同様に審議している。

自己評価の客観性を高めるために、教職員評価だけではなく、児童の生活実態調査や保護者アンケートを実施し、集約・分析等を行っている。保護者アンケートについては、毎年一度、教育活動全般に関わる内容で実施しているほか、授業や行事ごとに随時実施してきており、それらの結果も自己評価に反映されるようになっている。



学校説明会

### 2 学校関係者評価委員会

本校においては6名の学校評議員に、児童会館館長、まちづくりセンター所長、PTA会長の3名を加えた9名の方々に学校関係者評価委員会を構成している。

学校関係者評価委員会の中では、児童生活実態調査の結果・保護者アンケートの結果・教職員の自己評価を参考に、さらには学校説明会、授業参観や学校行事の一日学校公開日（今年度は教育実践発表会）に来校していただき、児童や学校、教職員の姿を直に見てもらいながら、自己評価の実施の在り方や評価内容が適切であるかを検討している。

本校では、年2回、委員が一堂に会する座談会形式でそれぞれの意見や評価を伺っている。それぞれの方が、学校とのかかわり以外に、自らが中心となる組織に所属しており、様々な角度や視点から発せられる見解は、教育活動への新たな風を吹き込んでくれる。



学校関係者評価委員会

## III 学校評価の年間の流れ

	自己評価				学校関係者評価
	学校(教職員)	児童	保護者	地域	学校関係者評価委員会
4月	職員会議(新年度学校経営方針) 学校評価項目決定 学習参観・懇談、PTA総会 家庭訪問、入学式反省	学力テスト 全国学力学習状況調査	学級懇談会 PTA 総会 家庭訪問		
5月	第1回学校説明会の実施 学習参観		学校説明会	学校説明会	学校説明会
6月	運動会反省 学習参観・懇談 通知表検討(評価規準の確認)		運動会アンケート 学級懇談会	スクールゾーン実行委員会	運動会
7月	教育実践発表会 学校評価(中間)自己評価表配付				教育実践発表会
8月	教育実践発表会反省 学校関係者評価委員会 学校評価集約(成果と課題の整理) 学校評価(中間)改善策の提示・検討				第1回学校関係者評価委員会

9月	改善の具体化 学習参観・懇談 通知表作成・説明・発行		学級懇談会		
10月	個人懇談		個人懇談		
11月	学習発表会の反省 保護者アンケートの実施 児童生活実態調査の実施	学習発表会感想カード 児童生活実態調査	学習発表会アンケート 保護者アンケート	学習発表会 感想カード	学習発表会
12月	学校評価(年度末)自己評価表配付 学習参観・懇談		学級懇談会		
1月	学校関係者評価委員会 学校評価集約(成果と課題の整理) 学校評価(年度末)改善策の提示・検討				第2回学校関係者 評価委員会
2月	学習参観・懇談 第2回学校説明会の実施 職員会議(年度末学校評価) 保護者アンケート結果配付		学級懇談会 学校説明会 新1年生 保護者説明会	学校説明会	学校説明会
3月	卒業式反省 通知表作成・発行 各部新年度方針立案 自己評価及び学校関係者評価の公表		PTA 拡大 運営委員会		学校関係者評価書作 成

#### IV 学校評価の方法

##### 1 自己評価

###### (1) 項目の設定

本校では一昨年度より、「学校経営案」と「学校評価」の直結を進めている。学校経営案にあげられた4指標22の項目を、そのまま自己評価項目として設定した。そのことが、教育活動と学校評価のぶれをなくすことにもつながり、項目をより重点化して精選することが迅速な学校改善を可能にすると考えている。なお、教職員の自己評価においては、さらに具体的な改善意見を挙げてもらうことが必要であると考え、自由記述欄を設けている。

###### (2) 児童・保護者アンケートの実施

本校では、教職員の自己評価をより確かなものにするため、同時期に児童生活実態調査、保護者アンケートを実施している。ただ、両調査ともにすでに数年前より継続して実施しており、経年比較の必要上、すべての項目を教職員の自己評価とリンクさせるには、今後検討が必要である。

###### (3) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

児童生活実態調査や保護者アンケートの結果については担任が集計した。その後、教務が項目ごとに統計処理を行い、前年度との比較や考察を加えた。調査からは児童の育ちや課題、保護者の教育活動への期待や改善状況を把握し、学校改善の達成状況を把握する基礎資料として活用した。教職員の自己評価は集約した後、推進会議(評価委員会)において分析し、各部により検討される。

###### (4) 改善策の検討

教職員の自己評価の結果から、「△課題あり」の評価が多い項目や、自由記述欄に記載された改善策については、推進会議(評価委員会)において検討し、各

学校経営案と  
直結した学校評価

部が分担し、次年度に向けた改善策を策定する。さらに職員会議において次年度の方向性を明確にし、校長による次年度の重点目標策定に資する。

また、保護者アンケートの自由記述欄に記載された改善意見については、自己評価に十分反映されるようにするとともに、学校だよりや学校説明会の中で学校としての回答を迅速に発している。

## 2 学校関係者評価

### (1) 学校関係者評価委員の構成と役割

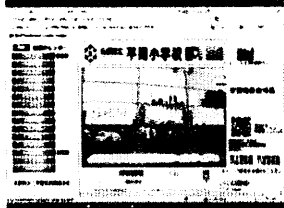
各調査結果や教職員の自己評価を資料に、教頭・総務が司会、説明、記録を担当しながら、意見をいただく形で会議を進めている。

### (2) 学校関係者評価書の作成

会議での意見、改善策を整理し、学校関係者評価書に記載して、各委員に最終確認をいただいた上で評価書を作成する。

## V 評価結果の公表

公表方法の多様化とスピーディーな取組



平岡小学校HP

### 1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

- ・学校ホームページに評価書をPDF化したデータを掲載する。
- ・学校説明会（2月）で児童生活実態調査や保護者アンケートの結果や次年度に向けた改善策について説明する。
- ・学校だよりに保護者アンケートの結果を記載するとともに、自由記述として寄せられた意見については回答と改善策を載せる。地域や関係者にも配付している。

### 2 公表の効果

保護者・地域に対して学校の取組や姿勢についての理解を促進できた。寄せられた声に対して、回答・改善できるものに対して迅速に取り組み、ともに学校を創っているという意識を高めてきたことの成果であると感じている。

## VI 成果と課題

学校評価は「目的」でなく、学校改善のための「手段」である

### 1 成果

学校経営案と直結した学校評価の各項目・指標の設定により、1年間の教育活動における重点的な取組の方向性がより明確になり、それを進めていく教職員の共通認識を深めることにつながった。

また、今年度も、中間評価や年度途中の時期でも可能な限り改善してきた。これは同時に、過重になる年度末の業務を分散させる意味合いをも含んでいる。

さらに、学校改善の本質にかかわる項目・指標に絞り込んだことで、「学校評価」という取組の本来の在り方を見出すことができた。また、学校評価をスリム化したことによる成果は、錯綜する業務の整理・精選・重点化にまで及んでいる。

### 2 課題

学校経営案と学校評価を直結させたことにより、新年度の学校経営案の重要度は更に増す。評価項目も連動していくことになるが、前年度の評価を受け、変更すべきものと継続すべきものを洗い出すことが、これまで以上に必要になる。

本校では、学校だよりや学校ホームページなどで、自己評価および学校関係者評価の実施やその結果を公表することとしているが、どのような形で公表することが正確に理解を得られるものなのか今後検証を重ねていきたい。

「課題」が次年度の具体的な取組の方針に

1 本年度の重点目標

**底力の発揮！ ～子供のための保護者・地域・教職員の連携～**

2 本年度の経営方針

底力の  
発揮

- ①授業づくり…主張ある授業と学び合いで、子供たちに「学ぶ力」を
- ②生活づくり…人間関係づくり、元気な挨拶等で子供たちに確かな態度＝「生活習慣づくり」
- ③環境づくり…環境整備、交流教育、読書習慣、三つの「あ」等との相互作用で子供たちに優しい「心」を

3 評価項目

分野	評価項目	評価内容（◎十分に達成 ○おおむね達成 △課題あり）	
		達成状況	改善の方策
重点目標	児童の知識・経験を生かした授業等での力の発揮		
	保護者・地域住民等の協力を生かした力の発揮		
	教職員の発揮（よさ・特技・趣味・持ち味・個性）		
	五つの「S」（笑顔・迅速・省力化・安全安心・貢献）		
	全教職員のチームワーク（協働体制）		
授業づくり	体験的・問題解決的な学習の構築		
	四つの「学ぶ力」の育成、基礎基本の定着		
	「学び方」の育成（話し方・聞き方・ノート・鉛筆）		
	授業研究のチームワーク～主張と学び合いの授業		
	指導法の工夫と改善（TT、ALT等）で確かな学力		
取り組み	札幌らしい特色のある教育（雪・環境・読書）		
	保護者・地域参加の学習		
生活づくり	学校の危機管理の指導の徹底		
	規則正しい生活習慣づくり		
	特別支援教育の充実		
	読書習慣の確立		
環境づくり	地域行事への参加啓発		
	学習環境の整備と充実		
	「かぜの子学級」との交流		
	環境整（頓）美（化）意識の啓発		
	子供との語らいの場づくり		
	「学校の品格」＝学校文化創造（言葉遣い、挨拶等）		

1 本年度の重点目標

**底力の発揮！ ～子供のための保護者・地域・教職員の連携～**

2 本年度の経営方針

底力の  
発揮

- ①授業づくり…主張ある授業と学び合いで、子供たちに「学ぶ力」を
- ②生活づくり…人間関係づくり、元気な挨拶等で子供たちに確かな態度＝「生活習慣づくり」
- ③環境づくり…環境整備、交流教育、読書習慣、三つの「あ」等との相互作用で子供たちに優しい「心」を

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価 評価内容 (①十分に達成 ②おおむね達成 △課題あり)		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標	児童の知識・経験を生かした授業等での力の発揮				
	保護者・地域住民等の協力を生かした力の発揮				
	教職員の発揮 (よさ・特技・趣味・持ち味・個性)				
	五つの「S」(笑顔・迅速・省力化・安全安心・貢献)				
	全教職員のチームワーク (協働体制)				
学校関係者評価者による意見					
授業づくり	体験的・問題解決的な学習の構築				
	四つの「学ぶ力」の育成、基礎基本の定着				
	「学び方」の育成 (話し・聞き方・ノート・宿題)				
	授業研究のチームワーク～主張と学び合いの授業				
	指導法の工夫と改善(TT、ALT等)で確かな学力				
	保護者・地域・GT協力型の学習				
学校関係者評価者による意見					
生活づくり	学校危機管理の指導の徹底				
	規則正しい生活習慣づくり				
	特別支援教育の充実				
	読書習慣の確立				
	地域行事への参加啓発				
学校関係者評価者による意見					
環境づくり	学習環境の整備と充実				
	「かぜの子学級」との交流				
	環境整(頓)美(化)意識の啓発				
	子供との語らいの場づくり				
	「学校の品格」=学校文化創造 (言葉遣い、あいさつ等)				
学校関係者評価者による意見					